

# 目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

## II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生による外国語研修・留学制度利用を促進する。	→留学制度を利用しようとする学生にとってネックであった4単位の諸科目の2単位化。外国語研修・留学制度利用学生数	D	C	B		
2. 受け入れ留学生（受け入れ国、人数）を見直し、学部の活性化につなげる。	→留学生の受け入れ国数、受け入れ人数（新中期計画による具体的な受け入れ数が確定した上で、それを目標として設定する）。	C	C	B		
3. 外国人留学生・国連難民高等弁務官推薦制度による入学生の修学状況等のケアを図る。	→外国人留学生および国連難民高等弁務官推薦入学制度による入学学生と学部執行部との会合の実施。 外国人留学生等の修学状況等についての個別面談の実施。	A	A	A		
4. 海外客員教員招聘制度を見直し、教員との国際共同研究の推進、および、教育の拡充につなげる。	→海外客員教員招聘数。海外客員教員との共同研究・共同論文数の把握。海外客員教員の実施授業数。 海外客員教員招聘制度の改善に関する商学部からの要望の提言。	C	C	C		
5. 教員による海外留学、海外での共同研究の拡大。	→教員の海外留学、共同研究支援制度の改善に関する商学部からの要望の提言。	C	C	C		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

★	目標1	研究演習が選択科目となってから、専門科目を学ぶために1学期ないしそれ以上の期間で留学を希望し、留学を果たす学生が増える傾向にあったが、2011年度にはやや減少している。2012年度から専門科目の2単位化の実施、言語教育科目の Semester 開講に踏み切ったので、海外留学しやすい環境となり、また帰国後の単位認定も柔軟に対応可能となった。
	目標2	従来まで中国からの留学生が多数を占めていたが、2012年度外国人留学生入試により、フィンランドからの留学生が好成績を収めて合格・入学した。近年、中国中心型から欧米人留学生も加わる傾向にあり、学部の活性化につなげる機会が増えるよう期待される。
	目標3	国連難民高等弁務官推薦入学制度による入学生に対し、学部執行部との面談を実施し、就学状況に満足しているかどうかを把握している。外国人留学生等の修学状況については学生主任が個別面談を通して把握している場合もある。
	目標4	学院が定めた海外客員教員招聘数が増えないので、本学部としても受け皿を欠く結果となっている。また本学部で積極的に海外客員教員の招聘に動く向きが少ないのも事実である。海外客員教員を招聘しなくても、海外共同研究を行うことができ、また実施している教員も少ないながら存在している。
	目標5	教員による留学は学院留学の制度を使ったものが大半であり、独自に留学の機会を得る教員は皆無である。学院留学制度が現状である限り、教員の海外留学は進みにくい。また、商学部独自で海外の大学と研究交流を進める案は提示されていない。個人的に留学先や学会で知り合った関係を生かして、研究交流を図り共同研究に結び付けている教員は存在している。
	備考	

## 《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学部】			単位	2007	2008	2009	2010	2011	2012	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・累計数 ・交換は正規以外とする。 外国人留学生÷在籍学生数	
		外国人留学生	正規	人	30	30	29	29	36		37
			交換	人	—	—	—	—	—		—
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.0	1.0	1.0	1.0	1.3		1.3
			交換	%	0.7	1.2	0.7	0.7	0.9		0.9
その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	10	17	15	24	23	23	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	25	23	23	35	31	31	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.3	0.6	0.5	0.9	0.8	0.8	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.9	0.8	0.8	1.2	1.1	1.1	
その他	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	1	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	1	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	3	2	2	1	1	1	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	30	40	39	60	54	54	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	0	0	1	1	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%	—	—	4.0	0.0	0.0	2.1	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)